両氏が帰国される12月30日はすばらしい快晴で，京都の街並にはすでに松飾りも見られ，名残りの雪を眺めながら大阪空港に向う．空港にはすでに斎藤全弘君が来ており，2人してヒダヤット氏の離日を見送った．

4. 銀河天文学における交流の意義

ヒダヤット，スタンチョ両氏を迎えての一連の討論と懇談のなかで，研究交流の構想も次第に固まり，1月には計画案を「銀河系の分光学的，測光学的研究」という表題の下に学術振興会に提出して，現在，その方向で準備が進行している．交流の規模はほぼ3年で，毎年数名の研究者を交換するという案である．3年目または4年目には締めくくりの意味で合同シンポジウムの開催も予定されている．

この交流の意義は，これまであまりにも疎遠であった東南アジア諸国と，科学協力の面で大きなつながりを持とうとする点が第1であろうが，天文学に限っても，南北両半球からの銀河帯の組織的観測という点で画期的な意味をもつものと期待される．

この交流によって成果の期待される分野をあげてみると，①銀河中心をはさむ銀河帯で，現在，赤外掃天観測が進行しており，これと平行する赤外天体，赤色巨星などの遠距離探査観測による銀河構造の研究，②ボスカ天文台に光電測光装置を設備することにより，変光星，星団等の組織的測光観測の実施，③ボスカ，日本でのシュミット望遠鏡による銀河天体の共同観測，④銀河系力学に関する理論的研究の交流，などである．

これらの課題はどれも，今後の日本の銀河天文学の発展にとって重要なものである．大型光学望遠鏡の建設をはじめとする天文学将来計画の論議が現在進行中であるが，そのなかでアジア地域との交流や，国外での観測の可能性などの問題が次第に比重を増している．今回のインドネシアとの交流がこの面でも一つの契機になりうるのではないかと期待されるのである．

学会だより

山田科学振興財団研究援助候補推薦について

山田科学振興財団より学会あてに，下記内容の54年度分研究援助候補の推薦依頼がありましたのでお知らせ致します．

1. 援助の趣旨

本財団は，自然科学の基礎的分野における重要かつ独創的な研究に従事する個人又はグループに対し援助します．

2. 援助の金額及び期間

イ．金　額　総額　1億2千万円以内
1件につき 1千万円前後 2千万円以内の援助（A）及び1件につき3百万円前後，5百万円以内の援助（B）を併せて 10 数件

ロ．期　間　1年を原則とします．研究の継続を必要とする場合は，毎年提出された推薦書に基づき選考します．

3. 推薦方法

イ．推 薦 者　本財団が依頼した学（協）会の代表者

ロ．推薦件数　1推薦者ごとに（A），（B）おのおの1～2件

ハ．推薦手続　推薦者は，所定の用紙又はその写しに必要事項を記入し，関連主要報文一覧表を添え，5部ご送付願います．なお関連主要報文のうちから3種をえらび，その別刷もしくは写しを各報文ごとに4部ずつご送付願います．

4. 選考結果の通知

昭和55年3月末迄に推薦者及び代表研究者等にあてて通知します．

5. 援助金の贈呈

昭和55年4月以降

6. 連 絡 先

財団法人　山田科学振興財団
(Yamada Science Foundation)
〒544 大阪市生野区巽西1丁目8番1号
ロート製薬株式会社内
電話　大阪（06）758 局 1231
ロート製薬株式会社呼出

申請用紙を御入用な方は，学会庶務理事までお申し出下さい．申請書は，昭和54年10月10日までに学会あて提出して下さい．